

Title	元師公爵大山巖
Sub Title	
Author	菅原, 精一 (Sugawara, Seiichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.2 (1937. 6) ,p.157(321)- 157(321)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370600-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

書評

元帥公爵大山巖

本書は日露戦役三十周年記念日に出版されたものである。編纂委員長尾野實信、副委員長二宮治重以下数名の委員の分擔執筆に係り、第一章大山家の家系以下維新前後の活躍、佛國留學、十年戦役、陸軍卿時代、陸軍大臣時代、日清戦役、日露戦役、内大臣時代等の二十六章に分れ、天保十三年より大正五年に至る七十五年に亘る元帥の一生を敘述したものである。尾野實信は日露戦役中總司令部參謀として行動を伴にし、二宮治重は最後の元帥副官たりし人であり、其他各筆者は何れも元帥と深い人格的の交渉を有した人々であり、更に其の使用した史料は公爵家にあつた委員猪谷宗五郎の十數年來の蒐集に據つたものである。従つて、英醫「ウキリス」の招聘、國家君が代の撰定、兵制の改革、兵器に關する貢獻、東宮御輔導に關する事柄等未だ世人一般に知られなかつた事實が明かにされてゐる。是に於て讀者は元帥に對する一般世評たる所謂茫漠たる偉大に就て改めて明確な認識を得る事であらう。

元帥が明治、大正年間に於ける代表的人物の一人であり又皇國陸軍の生みの親である事は何人も知る所であつて、此意味に於て本書は明治、大正の各時代史であり、更に日本陸軍の發達史でも

あつて、遍く一般に閲讀せられん事を希望するものである。

本書は口繪挿圖の多數なる點にも特色を有するが、就中戊辰役淀、富の森附近の戰場航空寫眞は注目に値し、今後益々史學關係方面への航空寫眞の利用性多きを明示するものと考へられる。別帙附圖二十九葉は主として元帥の參加せる戦役の經過を物語り讀者に多大の便を與ふるものであるが、特に大部分を占める戊辰戦役關係各圖は從來之に類するもの尠く本書に於て始めて見る事の出来るもので極めて有意義なもので戦史の専門家にとつても大なる參考となるであらう。別冊の年譜は日記、自敘傳、書簡等に材料を採り本文に見えない元帥日常生活の一端をも覗ふ事が出来る。尙本書は其の序文にもある如く短期間に完成するの必要に迫られた爲、やむなく省略した點も少くないが是等に就ては公爵家に於ける豊富なる史料に基き近く元帥傳史料として次第に刊行せられる筈である。自分は只今史料整理に従事する一人ではあるが、本書が世上に流布する書と異り獨り明治史家のみならず各家庭に於ても子弟教養の爲にも有益と信じ敢て紹介するものである。昭和十二・六・二（菅原精一）

深見篤慶先生

（篤慶先生遺徳顯彰會編發行）

本書は三河の勤王家深見篤慶の事蹟顯彰の爲め編纂されしもので、略傳の外遺稿其の他參考史料を收録されて居る。

篤慶は通稱藤十、幼名友三郎、號松塙と號し、文政十一年十一月八日知多郡阿野村外山三助の長子として生れ、後、深見藤重の